

看護診断評価状況の可視化

病院看護部

取組概要について

看護のプロセスにおいて、患者や家族との関わりに看護師の介入が明確になっており、患者を担当する看護師の看護診断評価を週一回実施し、その評価を看護記録委員会により監査を実施し改善に取り組んでいるが、その監査業務は患者ごとのカルテを確認する作業を伴うがその作業が1~2時間要する状況となっており、タイムリーに監査業務のフィードバックが出来ない状況を BI ツールを活用し、可視化を行い監査業務の効率化を行った。

この取組のきっかけは？

2年前、看護部の看護師長クラスに医療情報担当枠を設け、システム担当部署との連携しながら、病院運営、診療業務等の改善に対する様々な取り組みがしやすい体制を整いつつある。これまで医療現場で困っていた問題や時間を費やして対応していた課題等が、システム担当部署との連携により解決できるという、課題解決を一つずつ積み重ねて次の課題解決の取組につながっている。

また BI ツールを利用して、効率化が図れた業務が増えてきたこともあり、本取組にも BI ツール導入し、患者さんが入院中に看護評価の結果をフィードバックし、医療の質の向上につなげることはできないかとの考えから取組むこととなった。

どうやって解決しましたか？

昨年度 RX 学長賞となった看護部の取組を、本取組にも導入し、リアルタイムに看護診断評価状況がわかるよう可視化を行い患者さんのケアの直結することができるようになった。

特にアピールしたい成果または効果は何ですか？

タイムリーに評価ができて、タイムリーにその患者さんのケアに直結していくっていうところは、やるべきことがすぐにできるようになったというところ。あとは加算がスタートしたのが多い。

医療情報を担当する看護師が配置されたことで、データの臨床的意義がシステム担当者や専門家にも伝わり易くなり、協力が得られてきている状況はアピールの一つだと思う。

さらに、記録監査のフィードバック受けることにより自分の記録の良かった部分や足りない部分について、前向きにディスカッションできるということは自分の糧になることも強みとなっている。

取組みの中で難しかったことは何ですか？

情報ツールに精通した職員がいないので、記録の中から、自分たちが必要なデータをどのように抽出し、抽出したデータをどのように加工するとすべての看護師が理解できるかという調整がすごく難しかった。データの抽出は看護師ではなく、病院情報管理システムの管理担当者になるため、看護師がイメージしているデータ抽出について、何のためにどのように活用するから、このような作成でお願いしたいとビジョンを明確にして伝える必要があった。

取組みの結果、皆さん自身の働き方に何か変化はありましたか？

監査に時間がかからないので、この BI ツールを利用すると、評価の対象となる患者さんがタイムリーに把握可能となるため、きちんと対応できるようになった。

数値で可視化することにより、病院収入に影響する加算の算定漏れの抑止にもつながり、その意識は全体的に変わってきている。手作業によるデータ収集に精一杯であった事務作業の時間を、BI ツールを用いた可視化に変えたことにより、本来の業務である看護ケアや看護の質の向上のためにマインドを向けることが可能となった。

以上